關於「いま」與「さっき」的使用區分之考察
——如何表達「剛才」的語意

陳昭心

臺灣大學日本語文學系副教授

摘要

本研究考察中文裡使用「剛才」的地方在日文裡如何區分使用「いま」與「さっき」。先行研究對於「いま」與「さっき」進行個別記述，且兩者皆能表示「很近的過去（近い過去）」。本研究則是比較了先行研究裡少數同時使用「いま」與「さっき」的句子，認為在同時使用的語境裡，「さっき」表示與「いま」之對比（今との対比）。另一方面，當「いま」與「さっき」只出現其中一個的時候，先行研究並沒有說明如何區分。本研究將所收集的「いま」用例以「該當事情與發話時間的距離（直前度）」做分類之後發現，即使不是「很近的過去」也有「いま」的用例，而「いま」的使用則是因為話者尚未作「場面切換」。另外從「いま」與「さっき」的用例比較中，也發現「さっき」的使用是因為話者已作了「場面切換」。

關鍵詞：「いま」、「さっき」、剛才、與「いま」之對比、場面切換

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

受理日期:2019 年 3 月 10 日

通過日期:2019 年 5 月 3 日

A Study of the Usage of *Ima* and *Sakki*: How to Express the Meaning of *Gāngcái*

Chen, Jau-Shin

Associate Professor, National Taiwan University, Taiwan

Abstract

The situations of using *gāngcái* are sometimes expressed by using *ima* and sometimes expressed by using *sakki*. The prior studies explained the usage of *ima* or *sakki* individually, but they did not explain how to choose between *ima* or *sakki* if we want to express the meaning of *gāngcái*. This paper attempts to find the solution from the context clues. The findings are shown as follows:

(1) In the context containing both *ima* and *sakki*, *sakki* means "contrast with *ima*."

(2) In the context containing either *ima* or *sakki*, *sakki* is used because of scene-shifting, and if there is no scene-shifting, *ima* can be used.

Key-words: *ima*, *sakki*, *gāngcái*, contrast with *ima*, scene-shifting

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

「いま」と「さっき」の使い分けについての一考察
―中国語の“剛才”の意味を表す場合―

陳昭心
台湾大学日本語文学系副教授

要旨

本研究は、中国語の“剛才”の言語感覚にあたる「いま」と「さっき」の使い分けを考察した。「いま」と「さっき」は、従来の研究で別々に説明されている内容を見ると、両方とも「近い過去」を指すことができる。しかしながら、「いま」と「さっき」を単独に使用する場合の使い分けは説明されていない。本研究では、「いま」と「さっき」が同時に提示された例文を観察した結果、「さっき」は「今との対立」を意味するということがわかった。また、単独に「いま」が使用された用例を「直前度」の違いによって分けてみたところ、「いま」の使用は、「直前度」の高さというより、むしろ「場面の切り換え」の有無にかかわることがわかった。「いま」と「さっき」の用例を対照した結果、話し手が「まだ場面を切り換えていない」と捉える場合は「いま」が使用され、話し手が場面の展開に区切りをつけた場合は「場面の切り換え」が捉えられ「さっき」が使用されるということがわかった。

キーワード：いま、さっき、“剛才”、今との対比、場面の切り換え

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

「いま」と「さっき」の使い分けについての一考察
―中国語の“剛才”の意味を表す場合―

陳昭心
台湾大学日本語文学系　副教授

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

1. はじめに

日本語教育では、日本語の「いま」はまず中国語の“現在”の訳で導入されることが多く、次に“剛才”の訳で提示される。一方、日本語の「さっき」は中国語の“剛才”の訳で導入されるのが普通である。例えば、『みんなの日本語』の繁体字中国語バージョンでは、各課の冒頭に新出単語とそれに対応する中国語の意味が載せてある。「いま」が最初に出ているのは第 4 課であり、“現在”という中国語で説明されている（第 4 課 p.60）。第 29 課になると、「今の電車」という表現が出て“剛才的電車”という中国語で説明されている（第 29 課 p.49）。一方、「さっき」が最初に出ているのは第 34 課であり、“剛才”という中国語で説明されている（第 34 課 p.101）。

実際、第 4 課の「いま」の例文を見てみると、確かに次の（1）のように「いま＝“現在”」の説明が成り立っている。ところが、第 21 課になると、（2）のような「いま」を“剛才”に訳さなければ座りが良くないことがある[1]。

（1）今　4 時 5 分です。

今　何時ですか。……2 時 10 分です。

[1] （2）の「いま」は、“現在”というより“剛才”の意味に近い。この「いま」は“剛才”の意味として使用された初めての例文である。しかしながら、中国語バージョンの教科書で新出単語として紹介されていない。それだけではなく、巻末の（日本語の）索引にも載せていない。つまり、日本語母語話者にとっては、21 課の「いま」と 4 課で導入された「いま」とは特に区別する意識がない、と言える。この時点では「さっき」という単語がまだ出ていないため、（2）における「いま」はさりげなく提示しても理解に支障がないかもしれない。

ニューヨークは　今　何時ですか。……午前　0時10分です。

〈『大家的日本語　初級Ⅰ　改訂版』p.61　第4課文型と例文〉

(2) A：今　放送が　ありましたね。何と　言いましたか。

B：きょうは　9時半から　中に　入る　ことが　できると　言いました。

A：そうですか。　ありがとう　ございます。

〈『大家的日本語　初級Ⅱ　改訂版』p.109　第21課練習C〉

また、第29課になると、確かに（3）のように「いま＝“剛才”」の説明が成り立っている。ところが、第34課で「さっき」が導入されると、(4) のように「さっき」と「いま」の区別が問題になる。すなわち、「さっき＝“剛才”」という説明が成り立っている一方で、「いま＝“剛才”」という訳も成り立っているからである。

(3) イー：　すみません。　今の　電車に　忘れ物を　して　しまったんですが……。

駅員：　何を　忘れたんですか。

〈『大家的日本語　進階Ⅰ　改訂版』p.51　第29課会話〉

(4) 例：今　言いました・言ってください

→　今　言ったとおりに、言ってください。

1)　さっき　書きました・漢字を　書いて　ください

→　さっき　書いた　とおりに、漢字を　書いて　ください。

〈『大家的日本語　進階Ⅰ　改訂版』p.105　第34課練習B 1）の答えは筆者による〉

(4) の「いま」の例文「今言ったとおりに、言ってください」は、中国語の言語感覚で考えると、“現在”というよりむしろ“剛才”の意味に近い[2]。その続きの例文「さっき書いたとおりに、漢字を書い

[2] 「今言ったとおりに言ってください」という表現は、「今、言ったとおりに言ってください」というように「今」の後ろにポーズを入れて発話する場合は、

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

てください」の「さっき」も、“剛才”の意味にあたる。このように初級日本語学習者は学習が進むと、“剛才”の意味を表す場合における「いま」と「さっき」の使い分けの問題が生じる。

このように、中国語の言語感覚で“剛才”を使用するところでは、日本語で「さっき」を使用したり「いま」を使用したりするように思える。そこで、本研究では、中国語の言語感覚で“剛才”を使用するところで日本語ではどのように「いま」と「さっき」を使い分けるのか、ということを考察する。

なお、本研究は「いま」と「さっき」の使い分けの手がかりに焦点を置いているため、「ただいま」や「たったいま」といった表現を「いま」系のものとし、「さきほど」や「ついさっき」といった表現を「さっき」系のものとして見ている。同系の表現間の違いはあるものの、その相違が本研究の目的ではないため、「いま」系と「さっき」系の２つの概念で考察する。

2. 先行研究とその検討

2.1 「いま」と「さっき」について

まず、一般の国語辞典より深く説明する専門辞典の記述を挙げる。飛田・浅田（1994）は、「いま」「ただいま」「たったいま」「さっき」「さきほど」などを別々に挙げて説明している。まとめてみると、「いま」「ただいま」「たったいま」の３つの表現は、共通して①現在、②近い過去、③近い未来を表すと説明している[3]。「さっき」「さきほど」の２つの表現は「ごく近い過去を表す」と説明している、

確かに「今言ってください」というような「今＝“現在”」の解釈になり得る。ただ、第 34 課練習 B の提示の仕方、つまり（4）の「今　言いました・言ってください」のように、「今　言いました」と「言ってください」の間に点が置かれてあるため、「今言ったとおりに言ってください」という表現となることが期待されており、その文においては「今＝“剛才”」の解釈のほうが自然であると考えられる。

[3] なお、「いま」は、④「さらに少量付け加える様子を表す」という「ただいま」や「たったいま」にない用法を持つ（p.74）。また、「たったいま」は①「現在を誇張する様子を表す」②「近い過去を誇張する様子を表す」③「近い未来を誇張する様子を表す」といった３つの意味を持つという説明が述べられている（p.272）。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

ということになる。以下、本研究の考察対象と見られる「近い過去」や「ごく近い過去」を表す例文を挙げる。

近い過去を表す「いま」の例文：

(5) いま、君のうわさをしていたところだ。

(6)「宿題は？」「いま帰ってきたばっかりなのに」

(7) いま泣いた烏がもう笑った。(ことわざ)

(8) いまさっき出ていった人、だあれ。

(9) いまの話、ほんとうかい？

(10) これはいま出来の品物だから骨董屋は引き取らない。

〈『現代副詞用法辞典』p.73〉

近い過去を表す「ただいま」の例文：

(11) ただいまの地震は東京は震度三の弱震でした。

(12) ただいま御紹介をいただきました浅田でございます。

(13)「ただいま～、おなかすいた」「おかえんなさい」

〈同上、p.267〉

近い過去を誇張する様子を表す「たったいま」の例文：

(14)「はい、ケーキ」「わあ、たったいま食事したばっかりなのよ」

(15)「たったいま言われたことを忘れては困りますな。」

〈同上、p.272〉

ごく近い過去を表す「さっき」の例文：

(16) 彼ならさっきまでそのいすに座っていたよ。

(17)（公衆電話の前で）私さっきから待ってるのよ。

(18) さっきはひどいこと言ってごめんね。

(19)（同僚に）課長はついさっき出かけたわよ。

(20) さっきの話を続けてくれないか。

(21) パパが帰ってきたのはついさっきよ。

〈同上、p.166〉

ごく近い過去を表す「さきほど」の例文：

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

（22）さきほどから伺っておりますと、まるでうちの子ばかり問題があると言わんばかりじゃございませんか。

（23）さきほどはたいへん失礼いたしました。

（24）さきほど吉田さんからお電話がありました。

（25）さきほどのお話をもう一度くわしくお願いします。

（26）お客様がお帰りになったのはついさきほどです。

〈同上、p.163〉

上記のように、飛田・浅田（1994）は「いま」系と「さっき」系それぞれ多くの例文を挙げているが、その説明について疑問を感じる。例えば、近い過去を表す「いま」の例文では、例 8 のような「非常に近い過去を強調して表す」（p.74）というものもあるし、例 10 のような「最近の□□という意味を表す」(p.74) というものもある。このように飛田・浅田（1994）は「過去」の区分の幅が広いため、どこからどこまでを過去と呼ぶのかが明確でない。そのため、「近い過去」という記述で「いま」をまとめるしかないことになる。しかし一方、「さっき」の解説として、「しばしば『つい』という副詞を伴い、現時点から数分～数時間さかのぼった程度のごく近い過去を表す」(p.166) と書いてあり、「さきほど」の解説としても「現時点から数分～数時間さかのぼった程度のごく近い過去を表す」(p.163) と書いてある。そうすると、「いま」で表す「近い過去」と「さっき」で表す「ごく近い過去」の区別は、その使い分けが分かりづらい。つまりこの辞典では、「いま」と「さっき」の例文は別々に挙げられており、また、文脈も欠けているため、「いま」と「さっき」それぞれ表している「過去」の内実が十分に把握できない。

また、森田（1980）でも、「いま」と「さっき」について、別々に説明と例文を挙げている。以下、本研究の考察対象と見られる内容を節録する。

「いま」の説明：

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

発話の時点において、過去と未来とに挟まれた「時」を認識し、表すことば。観念として時をとらえるのであって、厳密な、過去と未来との境めの瞬間のみを表すのではない。話し手の位置する時点から見て「今」と考える射程は、とらえる対象によって違ってくる。……（中略）……「今」は一方で過去と対応し、他方で未来と対応している。その対応関係によって「今」が“現時点”であったり、“近い過去”や“近い未来”であったり、また“現在”であったり“現代”であったりする。その差は「今」の使われる文型と文脈によっている。……（中略）……現時点から見て「今」と見なせるほど至近の過去・未来を指す。（「今……た」の形で、現時点の少し前、「今……する」の形で、現時点の少しあとの状況を示す。）〈pp. 37-40〉

近い過去の事実を表す「いま」の例文：

（27）彼は今帰ったばかりです。

（28）今ここにあった鉛筆知らないかい。

（29）バスはたった今出たところだ。

（30）今泣いた烏がもう笑った。〈p. 40〉

「さっき」の説明：

発話の時点から見てほんの少し以前と感じられる時を指す。ふつう数分から数十分といったところ。長くてもその日になってから起こったことである。事柄によって時のスケールが変わることはない。〈p. 179〉

事柄が少し以前に生じたことを表す「さっき」の例文：

（31）さっきあなたに電話があったよ。

（32）受付けはさっき開始したばかりです。

（33）さっき来た客はだれですか。

（34）さっき前の通りを救急車が通ったよ。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

（35）さっきの約束はどうなっちゃったの。
（36）さっきの話はなかったことにしよう。
（37）さっきの客は山本さんだよ。
（38）さっきは失礼した。
（39）さっきと同じ失敗。　〈p. 179〉

まとめてみると、森田（1980）は、「近い過去」、「至近の過去」、「現時点の少し前」といった言い方で「いま」を説明しており、「ほんの少し以前と感じられる時」、「少し以前に生じた」といった言い方で「さっき」を説明している、ということになる。上記のように「いま」と「さっき」が別々に記述されており、また、例文にも文脈の説明が十分とは言えないため、「いま」と「さっき」の実際の使い分けは捉えにくい。

ただ、森田（1980）では、僅かながら、「いま」という項目で例40が挙げられており、「さっき」という項目で例41が挙げられている。この2例は別々に挙げられているが、一緒に観察すると、興味深いことがある。

（40）さっき帰った／今帰った。　〈「いま」の例文、p. 38〉
（41）変な人が家の前にさっきもいたし、今もいる。
〈「さっき」の例文、p. 180〉

この2例とも「いま」と「さっき」を同時に提示するものである。すなわち、「いま」と「さっき」を対比しているものと言える。ただ、例40の「今帰った」は近い過去を表し、例41の「今もいる」は現在を表す、ということが注意されたい。すなわち、近い過去であれ、現在であれ、「さっき」は「今との対比」を意味している、ということがポイントだと考えられる。

このことは、浜田（2005）が言及した例文でも観察される。浜田（2005）は名詞にかかる「今」について論じているが、次のように

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

注として指摘した内容は興味深い。

「さっきのカーブはよかったけれど、今の直球はもうひとつだね」という例文に示されるように、厳密にいえば両者の使い分けは行われている。「さっき」が単なる「近い過去」を表すとすれば、「今」は「直近の過去」とでもいうべきだろう。ただし、以下の議論はこの両者を弁別する必要はないレベルで行われる。

〈p.19〉

上記の例文「さっきのカーブはよかったけれど、今の直球はもうひとつだね」では、「さっき」と「いま」が対比しているため、「近い過去」と「直近の過去」のような区別は納得できる。しかし、単独で「さっき」あるいは「いま」を使用する文脈であれば、「近い過去」なのか「直近の過去」なのかは区別しにくいのではないだろうか。それに、後で述べるように、「直近の過去」ではないにもかかわらず「いま」を使用する用例や、「直近の過去」と言ってもよさそうなのに「さっき」を使用する用例も観察されるため、両者の使い分けにはさらに別の要因があるのではないだろうか。

2.2 “剛才”について

一方、呂（1992）は、“剛才”について次のように記述している。

剛才 gāngcái 【名詞】発話の直前を指す

a. 動詞・形容詞や主語の前に用いる。

（42）～發現了一個新狀況（たった今新しい事態に気づいた）

（43）～來過一個電話，不知道是不是她打來的

（今しがた電話があったが、彼女からかどうかわからない）

（44）～還不到一點，怎麼現在已經兩點半了?

（さっき１時前だったのが、どうしてもう２時半になるの）

（45）～還很亮，現在不亮了

（今しがた明るかったのに、もう暗くなってしまった）

（46）～你幹什麼去了?

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

（今、何をしに行ったの＝你～幹什麼去了?）

b.　‘比・跟’などの語の後ろに用いる。

（47）吃了退燒藥，現在比～舒服些了

（解熱剤を飲んだら、さっきより少し気分がよくなった）

（48）跟～一樣，水還是太燙（さっきと変わらず湯が熱すぎる）

c.　剛才＋的＋名

（49）他把～的事兒忘了

（彼はたった今しがたの事を忘れてしまっている）

（50）～的消息可靠嗎?（今のニュースは信頼できるだろうか）

d.　剛才＋指＋名

（51）這就是～那個人（こちらが先ほどの方です）

（52）～這句話很重要（今の言葉はとても重要だ）　〈p.118〉

上の記述と日本語訳からわかるように、いわゆる「発話の直前」を指す“剛才”の使用は「いま」と訳されることもあるし、「さっき」と訳されることもある。そこでまた、どのように「いま」と「さっき」を選択するのか、という問題に戻る。ここで注意したいのは、例文の日本語訳が「いま」系と「さっき」系に分かれているということである[4]。「さっき」と訳された例文、すなわち、例 44、例 47、例 48、例 51 の中で、例 44 と例 47 の原文（中国語）が“剛才”と“現在”を並列して対比している[5]。このように“剛才”と“現在”が対比することを明示しているような用例では、「さっき」という訳

[4] 例 43 と例 45 は「今しがた」という表現を使用しており、例 49 は「たった今しがた」という表現を使用している。飛田・浅田（1994）によると、「今しがた」は「非常に近い過去を表す(p.77)」、「『いま』より完了の暗示が強く(p.77)」、「さっき」や「さきほど」に似ているが「時が現在に近く完了の暗示が強い（p.163)」という。すなわち、「今しがた」は「いま」や「さっき」などよりも「完了」の意味合いを強調するとも言えそうである。このような相違があるため、本研究ではとりあえず「今しがた」という表現を「いま」系にも「さっき」系にも入れないでおく。使い分けの手がかりを考える際にもこの 3 例を排除した。

[5] 例 48 の“跟剛才一樣，水還是太燙”　という文は、“還是”（依然として）という表現があるため、“現在”を明示しなくても対比の意味合いが感じられるが、“跟剛才一樣，現在水還是太燙”のように明示していても成り立つ。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

語が使用されている。この観察は、先述の「今との対比」が想起される。しかし一方、ほかの用例のように、単独で“剛才”が使用される場合は、もっぱら「いま」を訳語とすればよいのか、あるいは、何らかの判断のもとで「いま」か「さっき」かを選択すべきなのだろうか。ここでも、挙げられた例文に文脈が欠けているため、「いま」と「さっき」の使い分けの手がかりを把握できない。

2.3　ここまでのまとめ

以上、「いま」「さっき」“剛才”それぞれの説明と例文を考察してきた。その中の幾つかの例文と訳文から、「さっき」は「今との対比」を意味するということを指摘した。逆に考えれば、このことを使い分けの手がかりとして解釈すると、「今との対比」が明示的にある場合（例えば、「いま」と「さっき」を同時に提示する場合）は「いま」と「さっき」の使用が分かりやすい。ただその一方、「今との対比」の有無が不明な場合（非明示的な場合も含む。例えば、「いま」または「さっき」を単独で使用する場合）は「いま」か「さっき」かをどのように選択するのかが課題となる。

この問題を解明するために、以下、考察の焦点を単独で使用される「いま」と「さっき」の使い分けに置くことにする。考察の順序として、まず、中国語の言語感覚で“剛才”を使用するところにおける日本語の「いま」（以下、「いま（＝“剛才”）」と記す）の使用状況を、文脈付きの用例から考えていく。

3.「いま（＝“剛才”）」の使用

3.1「直前度」の違いから見た「いま」の用例

先述の浜田（2005）の用語で言えば、「いま」は「直近の過去」を指すことになっているが、どれほど近ければ「いま」が使用できるのかは明確ではない。それよりももっと気になるのは、どれほど遠くても「いま」が使用できるのか、ということである。すなわち、本研究の課題を考察するために、まず、「いま」の守備範囲を観察する必要がある。そこで、本節では、「直前」の度合い（以下、「直前

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

度」と呼ぶ）の観点から筆者が集めた「いま」の用例を分ける。「いま」の使用は、「直前度」の高い用例から低い用例まで、観察できた[6]。以下、「直前度」の違いによって、「直前度が高い用例」「直前度がやや高い用例」「直前度がやや低い用例」「直前度が低い用例」の4つに分けてみる。

3.1.1　「直前度」が高い用例

次の例53は、相手の発話が終わると、話し手がすぐその発話を取り上げる、というような用例である。例54は、あるコトが終わると、話し手がすぐそのコトを取り上げる、というような用例である。これらのような用例では、「いま」が指しているのは「直前度」の高い発話やコトである。

（53）明日菜：……　わかりました…　結納はとりやめてもらいます。
　　三鷹　：あの…　今　なんと…
　　妳…妳剛才說什麼?
　　明日菜：やめましょう、結納…　あなたの本当のお気持ちがわかった以上…
　　〈『めぞん』14:158-160／『相聚』13:168〉

（54）（ビアガーデンで）
　　オーナー：なあに　あれは…　きみの知り合い？
　　五代　：い…いいええ。
　　朱美　：五代くーん　特大ジョッキ追加ーっ。
　　オーナー：今きみの名を呼んだけど。
　　剛才…他們叫你的名字對吧。
　　五代　：こ、この名札覚えたんですよ、きっと……
　　〈『めぞん』4:88-89／『相聚』4:87〉

[6] 中国語の訳との対照ができるという理由のほかに、「似ていて違う」というような場面の収集ができているため、今回の用例は主に漫画からのものである。例えば、後述のように今回の用例の中で電話の場面が多くあり、それらの場面間の細かい相違が問題意識の解明にヒントを与えていると考えられる。

台灣日語教育學報第32期　禁止複製

3.1.2　「直前度」がやや高い用例

次の 3 例は、上記の用例と比べるとそれほど直前のコトではないと判断する。

(55)（響子の部屋で。響子が電話で話している。一の瀬がこたつでたばこを吸っている。）

響子　：……　わかりました。　明日一時に音無家に集合よ。
（電話を切る）ふ―。

一の瀬　：明日、惣一郎さんの命日かい。

響子　　：ええ、四年目の……

一の瀬　：今の、実家のおかあさんだろ。
剛才是妳媽打來的吧?

響子　　：ええ、今年も墓参りに来たがっちゃって…

〈『めぞん』8:142-143／『相聚』8:73〉

(56) 響子　　：（電話で）あら　そうですか。はい。わかりました。ゆっくり親孝行してらっしゃい。

（電話を切る。マーカーペンでカレンダーに書いてある「五代さん帰京」の日付にバツを付けたところを、朱美と一の瀬がドアのところで）

朱美　　：ひま？

響子　　：はい　どうぞ。

（三人がこたつを囲んで座っている。朱美と一の瀬がじ―っと響子を見る）

朱美　　：五代くん、きょう帰ってくるね。

響子　　：あ、それが今電話があって…　もう二、三日田舎（むこう）にいますって。
啊、剛才他打電話回來說… 還要在鄉下多待 2、3 天。

一の瀬と朱美：へ～～～。

一の瀬　　：さびしいね……

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

〈『めぞん』3:8-9／『相聚』3:26-27〉

(57)（響子が五代の付き添いで病院の庭で散歩している。よい雰囲気になって二人がキスしようとしたところ、「ピーポーピーポーピー　キキーッ」と音が聞こえた。見てみたら救急車が病院の前に止まっていた）

響子　：まあ…元旦早々…　……　……

五代　：そろそろ戻りましょうか。

響子　：そ、そうですわね。

五代　：（心内発話：ここまでくればあせることないよな。時間はたっぷりあるし…）

（二人が病室に戻る途中）

看護師：あ、五代さん。

五代　：はい。

看護師：あなたのお隣のベッドに、患者さんがはいりますから……

五代　：ああ、今運び込まれた人……

啊，就是剛才送來的病人…

〈『めぞん』7:210-211／『相聚』7:161〉

例 55 は、話し手（＝一の瀬）が、響子が電話を切った直後にすぐ「電話」のコトを取り上げるのではなく、関係のある「惣一郎の命日」の話をしていて「電話」のコトを取り上げている。例 56 は、話し手（＝響子）が電話を切った後、まだ「五代の帰京の日付」のコトの中にいるうちに、朱美が五代のことを言及したことから、話し手（＝響子）が「いま」を使用して現の話題に関係づけている。例 57 は、話し手（＝五代）が救急車を見ていて病院のロビーに戻ったら看護婦に言われたことから、「いま」を使用して現の話題に関係づけている。これらのような用例では、話し手がまだ電話での連絡場面や救急車の場面から完全に切り換わっていないトコロにいると言える。

台灣日語教育學報第32号　禁止複製

3.1.3　「直前度」がやや低い用例

次の 2 例は、例 55～57 と比べるとさらに直前度が下がっている。

（58）千秋　：もしもし　粗大ゴミの回収お願いしたいんですが

（連絡した後、こたつを 2 階の部屋から道辺に出した。）

千秋　：（心内発話：さらば　こたつ　もう二度と入ることもあるまい）

（部屋に戻って掃除をする。きれいに片づけた後）

千秋　：（心内発話：のだめには悪かったが、あいつもこたつがなくなればもしかしたら生活の改善も……）

（ピンポーン）

千秋　：（心内発話：のだめか）は－－－い

（ドアを開ける）

のだめ：先輩先輩♡　今　外ですんご―いいいこたつ拾っちゃった～～～！　これで一家に一台置けますヨ～～～♡　　剛剛我在外面撿到很棒的暖被桌―

〈『のだめ』2:85-88／『交響』2:88[7]〉

（59）（八神が響子と一刻館に帰ったら、玄関に母と五代が立っていた）

響子　：あら…

八神　：あっ。　ママ。

八神の母：いぶき。（八神が外へ走りかける）お待ちなさい！建設的に話し合いましょう！！

八神　：建設的…？

五代　：い―からこっちおいで。

八神の母：おか―さんを信用してっ。

[7] この用例の中国語訳は“剛剛”を使用している。筆者の判断では、ここで“剛才”を使用してもよいと考えられる。呂（1992）によると、“剛／剛剛”と“剛才”は「意味が近いが品詞が異なる」（p.118）、前者は副詞、後者は名詞であるという。ただ、本研究の焦点は“剛才”と“剛剛”の違いにあるのではなく、どちらも「直前の過去」を表す「いま」と「さっき」の区別にあるため、中国語の訳の微妙な区別は問題にならない。

台灣日語教育學報第32号　禁止複製

八神　　：（玄関に入って）……　五代先生　これ……（五代に買い物の荷物を抱えさせる）

五代　　：ん？

（八神が二階へ走りかける）

八神の母：いぶき。

五代　　：あっ、　こっ、こらっ。　待てちゅうに　こらっ！（二階へ追いかける。八神は五代の部屋に入ってドアを閉める）

（五代、響子、八神の母、この三人が部屋の前に来ている）

五代　　：きみのおかあさんは泣いてるぞっ。

八神　　：ど―せパパの味方でしょっ。

八神の母：いぶき、　おかあさんはあなたの味方ですよ。

八神　　：ウソよっ。

八神の母：ウソなもんですか。今も五代先生とお話してみて、とってもいいかただと思ったわ。我剛才跟五代老師聊了一會兒

八神　　：……　……　本当？　本当にそう思う？

〈『めぞん』10:150 - 151／『相聚』10:35〉

例 58 は、話し手（＝のだめ）が道辺にあったこたつを 2 階の部屋まで運んできたことから、「こたつを拾う」コトの直前度がそれほど高くないだろう。例 59 も、「いま」が指しているのは八神が一刻館に戻る前のことであるため、「いま」という言葉の使用時点から見ると直前度がやや低いと言える。上記の 2 例では、「こたつを拾う」コトと「五代先生と話す」コトはそれぞれ、話し手の中では「まだ切り換えていないコト」だと考えられる。

3.1.4　「直前」度が低い用例

次の例 60 は、もはや「直前」とは言えないものの、「たった今」を使用している。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

(60)（響子の父は娘がアパートにいないところを狙って、アパートを訪ねる）

響子の父：ごめんください。

五代　　：はい…　あっ、管理人さんのおとうさま。

響子の父：どうも。

五代　　：あ…あの、管理人さんおでかけみたいですけど。

響子の父：確認済みです。

五代　　：えっ？

響子の父：たった今電話したんですが、いっこうに出ませんので…

剛才我已經打過電話了

五代　　：はあ……

響子の父：あの…　テニスコートへはどうやって行けばいいんでしょうな。

〈『めぞん』4:21／『相聚』4:21〉

この例 60 は、携帯電話のない時代のことであったことから、話し手（＝響子の父）が前もって電話してみたという状況は、自分が家を出る前に行き先に電話したか、あるいは、駅前で公衆電話をかけてみたか、この両者のどちらかが考えられる。どちらも「直前」とは言えないものの、話し手が「たった今」を使用している。

「たった今」は、本当の「直前」のコト（「目下」という状況を含む）を指すのが典型的である[8]。それにもかかわらず、例 60 でも使

[8] 例えば、次の 2 例を参照してもらいたい。

(a)（パチンコ屋で）

男　：あ～～　調子出ねえ、　おめえの荷物のせいで、ろくに眠れなかったじゃなえか。

五代：聞こえません。

(「カラカラカラ　コトン…」と、パチンコの機械を見ている五代)

男　：おい、玉くれ　玉。

五代：たった今なくなりました。

〈『めぞん』4:195〉

(b) 女　：どなたあ。

響子：あの…　こちら五代さんのお部屋じゃ…

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

用されているということは、話し手の中で「電話で確認したこと」を確実に、臨場感たっぷりと挙げているように、すなわち話し手の中では「まだ切り換えていないコト」として挙げているわけであり、「心理的直前」とでも言えるように考えられる。

3.2　「いま」の守備範囲

ここまで見てきたことを、次のようにまとめてみる。つまり、「いま」の使用理由は、「直前度」の高さとの関係よりも、むしろ、話し手の中で当該場面が「まだ切り換わっていない」トコロにあるからだと考えられる。すなわち、話し手の中で場面が切り換わるまでは、まだ「いま」の守備範囲にあると言える。

一方、上述のような「いま」の守備範囲をもとにして「さっき」の使い方を推考すると、次のようになる。つまり、「いま」の守備範囲を超えると、「さっき」の守備範囲に入ることから、「さっき」の使用は、話し手は、当該発話の直前で「場面の切り換え」があったことを認識している。

では、「場面の切り換え」が「さっき」を使用する手がかりとなることを説明するために、次章では、「いま」の使用と対照しながら「さっき」の使用を考えていく。

4.「さっき」の使用

4.1　場面の切り換え

まず、次の２例を比べてもらいたい。

（61）（昼食時間。みんなが集まってお弁当を食べている。一時離席

女　：え一、そうですよ。
響子：あの…失礼ですが、あなたは…
女　：あたし達、今一緒に暮らしてんの。
響子：あ…　そうですか……
――――――
五代：えっ　管理人さんが…！？
女　：え一、たった今よ。　小包　届けに来たんだって。
〈『めぞん』4:200-201〉

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

していたAが戻ってきた。ずっとそこにいたBがAに聞く）

「いまどこ行ってたの？」

（62）（学校の昼休み時間。Aが先に席を外した。Aがいない間に担任の先生がAを探しに来た。その後、Bも席を外した。授業ベルが鳴る。Bが席に戻ったら、既に席に戻っていたAに聞く）

「おお～Aちゃん、さっきどこ行ってたの？先生が探してたのよ。」　〈作例〉

例61に比べて、例62は「区切り」がはっきり感じられる。例62では、「Aが席に戻って来た→……→BがAに聞く」という場面展開中における「間を取る」部分がある。そのため、Bの発話時点から見ると、Aの「どこかへ行っていた」コトを「さっき」の言語感覚で捉えやすいのである。それに対して、例61では、「Aが席に戻って来た→Aに聞く」ということを、ずっとそこにいたBにとっては「間のない」という場面の展開となっている。そのため、BがAの「どこかへ行っていた」コトを「いま」の言語感覚で捉えやすいのである。

次に、例63と例64を挙げる。この2例は、もはや「いま」の守備範囲を超えて、もっぱら「さっき」を使用すべき用例である。

（63）（授業が終わる。廊下で。授業の初めにクラスの秩序を維持してくれた委員長の響子にお礼を言う）

音無先生　：千草さん、さっきはどうも。

千草同學，剛才真謝謝妳。

学生の響子：い―え、委員長ですから。

〈『めぞん』9:156／『相聚』9:49〉

（64）（旅の食堂で）

響子　　：いきなり予定変えちゃったんで、　まだ宿屋も決めてなくて……

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

オーナー：ああ、それじゃ　知り合いの宿屋紹介してあげようか。

響子　　：あら、助かりますわ。

――――――（中略）――――――

響子　　：…ごめんください。　さっき電話で……

不好意思…　我剛才有打電話來…

旅館の女：（奥から出てきて）あー、はいはいうけたまわっております。

〈『めぞん』12:14-16／『相聚』11:74〉

例 63 は、「授業の始まりで委員長が秩序を維持してくれる」コトから「休憩時間で委員長に感謝の意を表す」コトへという場面の展開である。話し手（＝音無先生）が廊下で委員長に発話したトコロで見れば、すでに「委員長が秩序を維持してくれる」コトが一段落ついていたと言える。そのため、「授業で秩序を維持してくれた」コトを「廊下で発話した時点」では「さっき」で捉えやすい。

また、例 64 は「電話で事前連絡する（予約）」コトから「旅館に着く（チェックインする）」コトへという場面の展開である。話し手（＝響子）が旅館に着いたトコロで見れば、「事前連絡する」コトをすでに一段落ついたコトである。そのため、「電話で予約する」コトを「チェックインする」際に「さっき」で捉えやすい。

この 2 例とも、「さっき」で指すコトと、「さっき」の発話時点との間に、かなりの時間的隔たりがある。しかしながら、単に時間的隔たりがあれば「さっき」を使用するというわけではない。前章で挙げた「直前度がやや低い用例」と「直前度が低い用例」を見ても分かるように、かなりの時間的隔たりがあっても「いま」の使用があり得る。肝心なのは、その時間的隔たりの中で何らかの「区切り」がつくから「場面の切り換え」が捉えられ、「さっき」を使用するのである。例 63 と例 64 で言うと、「委員長が秩序を維持する」コトや「電話で事前連絡する」コトが一段落ついた、という「区切り」が

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

話し手に捉えられているため、「場面の切り換え」を感じて「さっき」を使用している[9]。その場面の展開に区切りがつくことを、本稿では「場面の切り換え」と呼ぶことにしたい。

4.2　区切りのつけ方

では、場面の展開における区切りのつけ方についてもう少し踏み込んでみる。本節では、時間的隔たりが類似している文脈を比較することを通じて使い分けの手がかりを探る。

まず、次の 4 例を比較する。4 例とも、時間的隔たりがない、あるいは極めて短い、という文脈である。それでも、「いま」のほうが自然である用例と「さっき」のほうが自然である用例に分けることができる。

(65) 夫：お前ってかわいいね。
　　妻：えっ、いま何って言った？
　　夫：だからかわいいと。

(66)（素敵だと思ってもなかなか人のことをほめない夫が、ある日、妻の浴衣姿を見かけてつい……）
　　夫：あっ、かわいい…
　　妻：えっ、何？何って言った？
　　夫：いやっ、別に…
　　妻：別に…じゃなくて、いま何って言ったのよ～～

(67) 夫：さすが鬼嫁…
　　妻：えっ、何って言った？
　　夫：いやっ、別に…晩ご飯何食べる？俺カレ…
　　妻：ちょっと待って！（急に真面目な顔になり）さっき何と

[9] 例 64 は、例 60 とも対照してもらいたい。この 2 例ともあるところへ行く前に電話しておく場面である。例 60 では、「ついさっき電話したんですが、いっこうに出ませんので…」というように「ついさっき」も使用可能である。が、例 60 は例 64 より話し手が「電話した」コトを「心理的直前」の事柄として捉えやすいため、「たった今」のような表現を使用しやすくなる。すなわち、例 60 の話し手の「確認済み」という認識は「たった今」の使用からうかがわれる。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

おっしゃった？

（68）（レストランで）

太郎：実は俺、花子のことがsu＊＆％＃＠＊＆％$＠

（隣のテーブルの携帯がいきなり大きく鳴る）

花子：！？・・・びっくりした！・・・ごめん、さっき何て言ったの？　〈作例〉

例65は、相手の発話が終わると、すぐその発話を取り上げる、という文脈であるため、「いま」を使用している。例66は、もう一度言ってほしいと考えている話し手（＝妻）の中ではまだその話題から切り離れていないため、「いま」を使用している。この2例は、場面に区切りをつけにくく、あるいはつけなくても自然だと言える。

それに対して、例67は、話し手（＝妻）が相手の話題転換を遮って話題を引き戻す、という文脈である。例68は、話題の進行中に邪魔された後に、話し手（＝花子）が改めて話題を引き戻す、という文脈である。この2例とも、話し手が場面の展開に区切りをつけているため、「さっき」のほうが自然である。

次に、時間的隔たりが比較的長い用例を比較してみる。次の4例とも、ある程度時間的な隔たりが入っている。ただ、「いま」のほうが自然である用例と「さっき」のほうが自然である用例に分けられる。

（69）（家にいる収が未央からの電話を受けた後、公園にいる一哉に通報する）

収　：一哉！

一哉：収…（なんだよ　息きらして）

収　：あのな　今　未央ちゃんから電話あってな…

一哉：え…！？

〈『ハンサムな彼女』5:220-221〉

（70）（＝例56再掲）

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

響子　　：（電話で）あら　そうですか。はい。わかりました。ゆっくり親孝行してらっしゃい。

（電話を切る。マーカーペンでカレンダーに書いてある「五代さん帰京」の日付にバツを付けたところを、朱美と一の瀬がドアのところで）

朱美　　：ひま？

響子　　：はい　どうぞ。

（三人がこたつを囲んで座っている。朱美と一の瀬がじーっと響子を見る）

朱美　　：五代くん、きょう帰ってくるね。

響子　　：あ、それが今電話があって…　もう二、三日田舎（むこう）にいますって。

啊、剛才他打電話回來說…　還要在鄉下多待 2、3 天。

一の瀬と朱美：へ～～～。

一の瀬　　：さびしいね……

〈『めぞん』3:8-9／『相聚』3:26-27〉

（71）（響子の部屋で。一の瀬が来ている。部屋の電話が鳴る）

響子　：はい、音無ですが……

（五代：あっ、もしもし　管理人さん！　五代ですっ、お話が……）

響子　：……（「ガチャ」と電話を切る。）

（五代：もしもしっ！　ちょっとおっ　管理人さんっ！！）

一の瀬：なに？いたずら電話？

響子　：ええ　まあ…

一の瀬：この頃、よくかかってくるんじゃない？

響子　：え―、もうしつこいったらありゃしない。

一の瀬：……

響子　：……　……

一の瀬：五代くんだろ。

台灣日語教育學報第32期　禁止複製

響子　：えっ……

一の瀬：やっぱりね―、　すぐ顔に出る。　どーゆこと？

さっきの冷たい態度……

怎麼回事? 剛才的態度那麼無情…

響子　：だって…

一の瀬：かわいそうじゃないかっ、　ひとりでさびしがってんじゃない？

〈『めぞん』4：207-208／『相聚』4:204〉

(72)（廊下の電話で）

響子　：まあ…そうですか……　はい…

（電話を切ると、一の瀬が帰って来た）

一の瀬：ただ―いま―。

響子　：（玄関の上がりまで来て）一の瀬さん……　どうでした？五代さんの具合……

（二人が響子の部屋に）

一の瀬：あんたさあ、　そんなに気になるんなら一度自分で見舞いに行ったらあ？

響子　：だって……

一の瀬：そりゃ―ね―、あんな大ゲンカのあとだから、顔　あわせづらいのはわかるけど……

響子　：あたし　嫌われたんです。

一の瀬：あのね…

響子　：当然ですわ。ケンカの原因だってもともとあたしが……　五代さんだってきっとあたしの顔なんか見たくもないと思います。

一の瀬：（心内発話：よくもまあこ―ゆ―もってまわった考え方ができるもんだね―）すまないと思ってるんなら、身のまわりの世話とかさ―……

響子　：四、五日したら、東京に住んでるいとこの方がいらっしゃるって…　さっき実家から……

台灣日語教育學報第32期　禁止複製

剛才五代家裡有說了…

一の瀬：あ、ああ　さっきの電話……　せめてそのいとこが来るまでさあ　　啊，就是那通電話吧…

響子　：でも……

〈『めぞん』7:144-145／『相聚』7:95〉

例 69 は、話し手（＝収）が電話のことを至急の用件として扱っていることがうかがわれる。それを伝える任務がまだ完了していない段階では、場面に区切りをつけずに「いま」を使用している。例 70 は、話し手（＝響子）が五代からの電話を受けたあとに、まだそのコトから切り離されていない場面で（「それが」という表現からもそれがうかがわれる）、また五代の帰京の話題を引き受けたため、場面に区切りをつけずに「いま」を使用している。この 2 例とも、時間的な隔たりがあるものの、1 つの「場面」として捉えられている。

それに対して、例 71 では、「いたずら電話」という話題を差し挟んでいるが、話し手（＝一の瀬）が「五代からの電話を受ける」という話題に引き戻している。「やっぱりね」という発話から、話し手の中での場面の整理がうかがわれる。そのため、話し手が場面の展開に区切りをつけていると言える。例 72 は、入院中の五代の状況が気になっていても見舞いに行くことを遠慮している話し手（＝響子）が、相手（＝一の瀬）に口説かれても、「五代さんだってきっとあたしの顔なんか見たくもないと思います」という発話からもわかるように踏ん切りがついており、しかも既に五代の実家から世話役の用意があるという情報で決断を下している。そのため、話し手の中で段取りよく場面分けをしており、電話のコトを「さっき」で捉えている。

このように、本節では、具体的な場面の展開における区切りのつけ方を分析した。以上の観察を通して、「場面の切り換え」の内実を読み解くことができた。

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

4.3　「場面の切り換え」と「今との対比」の重なり

最後に、「さっき」が意味する2つの概念、すなわち「場面の切り換え」と「今との対比」、この両者が重なっているところを考えておきたい。

（73）（ピンポーン）

千秋　：（心内発話：とどめは“のだめ”か――！！）

（ドアを開けると、桜が立っていた）

千秋　：（バタンッとドアを閉めて、目をゴシゴシする）（心内発話：幻……？　オレ疲れてるから……）

（ドンドンドンドン……先輩！　のだめ！先輩っ　のだめです～～～っ）

千秋　：じゃあやっぱり$\boxed{\text{さっき}}$のは幻覚？

那$\boxed{\text{剛剛}}$那個人，真的是幻覺?

（千秋がドアを開ける）

のだめ：ごはん恵んでくださ～～～い

千秋　：（心内発話：これも……副指揮者の仕事なのか？）

〈『のだめ』3:59-60／『交響』3:60[10]〉

例73は、話し手（＝千秋）が「さっき」を使用して「桜が立っていた」コトを指している。話し手（＝千秋）がまずドアを閉めて「幻……？オレ疲れてるから……」と判断したが、またその後に門外の呼び声が上がった時点で改めて「門外にいるのはのだめ？」と今の推測をしている。ここでの「やっぱり」からも話し手が結論を付けたことがうかがわれており、場面に区切りをつけていると言える。この「今の推測」をしていると同時に、「門外に桜が立っていた？（＝さっきの推測）」をも取り上げて否定していると言える。すなわち、区切りをつけて「場面の切り換え」を認識していると同時に、「$\boxed{\text{今}}$

[10] この用例の中国語訳は、例58と同じく“剛剛”を使用している。ここでも“剛才”の使用が可能であると判断した。注7も参照。

台灣日語教育學報第32期 禁止複製

のは確かにのだめだ！さっきのは幻覚だったのか？」というように、「今との対比」にもなっている。このような用例は「今との対比」が背景化していると言える。

つまり、「さっき」が意味する2つの概念、「場面の切り換え」と「今との対比」は、完全に対立しているわけではない。「さっき」が「いま」と同時に提示される場合は「今との対比」の意味合いが浮き彫りとなり、「さっき」が単独で使用される場合は「場面の切り換え」の効果が表れる、ということが言えよう。

5. まとめと今後の課題

本研究は、中国語の言語感覚で“剛才”を使用するところにおける「いま」と「さっき」の使い分けを考察した。「いま」と「さっき」が同一文中で使われた例文を観察すると、「さっき」は「今との対立」を意味するということがわかった。一方、「いま」が単独に使用された用例を観察した結果、「直前度」の低い用例もあったため、「いま」の使用は、「直前度」の高さよりも、むしろ「場面の切り換え」の有無にかかわっていると考えられる。「いま」と「さっき」の用例を対照した結果、話し手が「まだ場面を切り換えていない」と捉える場合は「いま」が使用され、話し手が場面の展開に区切りをつけた場合は「場面の切り換え」が捉えられ「さっき」が使用されると言える。

日本語学習者にとって、「いま（＝“剛才”）」の文脈が特に説明されていなければ、「いま」の守備範囲は日本語母語話者の認識より狭くとらえられる可能性がある。これについて更なる検証が必要であるため、今後の課題とする。

〈付記：本稿は、2018年11月17日に台湾大学のシンポジウム「2018年臺大日本語文創新國際學術研討會」において口頭発表した内容を大幅に加筆・修正を加え、書き直したものである。当日の発表予稿「『いま』と『さっき』の使い分け―中国語の“剛才”の言語感覚から考えて―」は『2018 年臺大日本語文創新國際學術研討會論文集』

台灣日語教育學報第32号 禁止複製

（pp. 81-88）に収録されている。〉

参考文献

飛田良文・浅田秀子（1994）『現代副詞用法辞典』東京、東京堂出版

浜田　秀（2005）「名詞にかかる「今」―時間副詞と名詞の関係に関する試論―」『山邊道』49、天理大学国語国文学会、pp. 1-20

森田良行（1980）『基礎日本語 2－意味と使い方』東京、角川書店

呂　叔湘（1992）『中国語用例辞典　現代漢語八百詞日本語版』牛島徳次（監訳）菱沼透（訳）、東京、東方書店

用例出典

スリーエーネットワーク（編）（2015）『大家的日本語　初級Ⅰ　改訂版』大新書局

スリーエーネットワーク（編）（2015）『大家的日本語　初級Ⅱ　改訂版』大新書局

スリーエーネットワーク（編）（2016）『大家的日本語　進階Ⅰ　改訂版』大新書局

高橋留美子（2005）『めぞん一刻⑶⑷⑺⑻⑼⑽⑿⒁　高橋留美子コレクション』小学館（ビッグコミックコンパクト）

高橋留美子（2008-2011）『相聚一刻⑶⑷⑺⑻⑼⑽⑾⒀　新装版』尖端出版

二ノ宮知子（2002）『のだめカンタービレ⑵⑶』講談社

二ノ宮知子（2002-2003）『交響情人夢⑵⑶』東立出版社

吉住　渉（2003）『ハンサムな彼女⑸』集英社文庫（コミック版）

台灣日語教育學報第32号　禁止複製